

デジタル診断の読影環境について

財団法人兵庫県健康財団

保健検診センター ○阿南 友季子 小林 誓 河野 昭博
吉田 祥二 神 幹雄 西田 道弘
杉村 千恵 伊藤 一夫

はじめに

デジタル化が進み、アナログとデジタルの画像が混在し読影室の環境が変わってきました。これまで、技師は読影室の環境については、気にも留めてませんでした。しかし、デジタル画像導入にあたり、本来、アナログとデジタルの読影室を分けるのが一番良いのですが、読影室を別々にする事が不可能でした。そこで、読影室の環境改善を図り、同一の室内でアナログとデジタル画像を読影可能にしましたので報告します。

目的

読影者にとって読影しやすい環境づくりをするにはどうすれば良いか

方法

読影室の改善項目として、

①室内の照度測定

室内の照明（300ルクス以上）については、調光器で調節出来るようにし、シャーカステンの光がモニター読影に悪影響を及ぼさないように、カーテンを設置して、遮光対策をしました。

②読影ビューワーの輝度測定

読影用のビューワーの輝度測定を平成21年より実施する事にしました。
シャーカステンの輝度測定は昭和55年より年1回行っています。

③粉塵測定

読影室への人の出入りが多いため、粉塵測定（0.15mg/m³以下）を平成21年より年1回行う事にしました。

④読影室の換気

仕切られた空間で換気が出来ないため、空気清浄機を平成21年に設置しました。

以上の項目を改善しました。

しかし、⑤読影の妨げになる外部の声の遮断、⑥デスク上の整理整頓、⑦読影室の毎日の掃除など、医師が読影に集中しやすい環境にするにはまだまだ、

改善すべき点が残されていると思われます。

結果

読影室の環境を改善することにより

① 読影の効率化が図れた。②目の疲れが軽減した。③モニターの輝度が程良いため受診者情報（問診、既往歴）を容易に確認しながら読影出来るようになった。④所見用紙の記録もし易くなった。

と言うような効果が得られました。

考察

この演題を発表するにあたって、兵庫県胃集団連絡協議会加盟 6 施設、胃部 X 線検査を行っている兵庫県下一般の 52 病院に「読影者の読影環境」についてのアンケートを行いました。回答は 35 病院、6 施設。うち、アナログ検査のみを行っている 1 施設、4 病院を除く 5 施設、31 病院の報告をします。

検診施行区分	デジタル画像の読影環境							
	検診機関 5 施設				31 病院			
室内照度の測定	実施	0	未実施	5	実施	0	未実施	31
読影ビューワの輝度測定	実施	2	未実施	3	実施	13	未実施	18
粉塵測定	実施	0	未実施	5	実施	0	未実施	31
読影室の換気	換気扇のみ 2、窓なし 2 無回答 1				換気扇あり、窓なし 4 換気扇あり、窓あり 3 換気扇のみ 9 窓あり 2・窓なし 9 空気清浄機 2・無回答 2			

室内の照度測定・粉塵測定は検診施設、病院とも全然実施されていなかった。読影室の換気は、検診施設、病院共に窓なし、換気扇ありで対応している施設が多い。読影ビューワの輝度測定は検診施設では実施 2 施設、未実施 3 施設、病院では実施 13 病院、未実施 18 病院だった。

すなわち全施設、病院共に技師の読影環境への無頓着さが見られる。

結語

放射線技師は画質に力を入れるだけでなく、読影しやすい環境に配慮しないと、医師の読影診断に影響が出る。したがって医師の要望や意見を伺い、互いが積極的に読影環境の改善に努め、読影に対する技師の意識改革が必要である。